

第1回 高2英語

総 評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に力を伸ばすことのできる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしたい。

問題A

(1)、(2)はスクリプトの前半からの出題だったが、選択肢の中には紛らわしいものもあったため、放送内の正解の根拠を確実に聴き取って判断する必要がある。(1)のaや(2)のbのように、一見もっともらしいが放送中では言及されていない情報を含む選択肢を選んだ答案が多かった。

(3)は地図を見て、訪問予定の家の位置を答える問題であるが、誤答はeが多かった。男性の発言のWe go one block and at an apartment building, turn left.でeの位置がan apartmentであることを押さえておきたい。道案内でよく使う表現をここで確認しておくとうい。

問題B

Part 1 (2)はaやcを選んだ誤答が多かった。時刻や年齢など、数字が多く出てきたので、注意して聞き取りたい。(4)の記述式問題では「親と一緒にいられない時」と「楽しく過ごしてほしい」の2点を明示する必要がある。内容を完全に取り違えているものは0点であるが、部分的にこの内容が含まれていれば部分点を与えている。

Part 2 ディクテーションを出題した。スペルミスの減点は各ー1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。(ア)ではof the workersのofやtheを聞き逃しているもの、(イ)ではa planをplannedとしている答案が目立った。ディクテーションでは、a, of, theのように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、文法や語彙の知識に照らして答案に誤りがないかを確認することの2点に注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(2)では空所の前にあるtoを含め前置詞の処理に苦労している答案、特にtoの後にopenを続けたためにforの置き場がなくなってしまったものが多かった。また、(4)では前後の文脈と照らし合わせながらwhile節内のbe動詞と主語の省略を見抜く必要があった。

問題B 和文英訳

「日本観に関する随想」というテーマで、日本語を読み換えたり、時制に注意して動詞を決める必要がある出題とした。減点されたところを必ず見直して、同じ間違いを繰り返さないように注意しよう。

以下のような採点基準で、減点法で採点した。

① ○私は、…時代を思い出しました。 ……3点
○日本人が、ヨーロッパこそ文明国だと異口同音に礼賛していた ……7点

「異口同音に」をallやmost ofといった表現を駆使して上手に言い換えた答案が多かった。一方で「思い出しました」「礼賛していた」「文明国だ」の時制の統一がとれていない答案も散見された。復習の際には、時制の一致についても一度確認しておきたい。

② ○今日ほど、私たちが…に自信を持っている時はありません。 ……8点
○自分たちの文化 ……2点

「今日ほど…な時はない」という構造を比較表現を用いて書いた答案が多かったが、比較の対象の抜けや、比較表現の語順の誤りで減点されているものも散見された。これを機に各種比較表現の知識を再確認しておこう。

◎ ○ヨーロッパからの旅行者の中には、…日本好きになっている人もいます。……5点
○彼らにとってなじみの薄かった日本式のもてなしを受けて……5点
「～好きになっている」という日本語を意識するあまり become to like ～ としている答案が多かった。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の下限の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点……10点

誤りの数に応じて、10点、8点、6点、4点、2点、0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・ どの案を選んだかが明確でないもの
- ・ 案を選んだ根拠の説明が不十分なもの

「校庭の花を増やす」案を選んだ答案の中には具体的に植えたい花を列挙するだけにとどまってしまうものもあった。自分の意見に説得力をもたせられるような文章の構成を考えたい。

4 長文読解

象を見に行った筆者一行と、その時の経験から学んだことを主題にした英文であった。難解な語彙が多いが、登場人物の動き、位置関係などを把握しながら読み進めていきたい。

(1) では、c を選んだ答案が多かった。本文の第1段落の内容に加え、空所の前の1文における情景描写と筆者一行の行動を理解しておく必要がある。

(3) company の解釈を誤っている答案が目立った。象の気配が強くなり、その場にいる誰もが company がいることを疑わなかった、という文章の流れに注意して答案を作成したい。

5 長文読解

文明の発達における鉄の重要性について述べた論説文。全訳も参照しながら全体の内容を再確認しておくとうい。

(1) ○ Iron is a natural gift of the earth

……3点

○ and almost as essential to the development of modern human civilizations ……4点

○ as oxygen is to animal life. ……2点

as ～ as…の構文の把握と、oxygen is (essential) to ～ の省略の読み取りがポイント。鉄と文明の関係を動物と酸素の関係になぞらえている点を理解して和訳できている答案が多かった。

(3) ○鉄製の農具の使用により ……3点

○食料の生産力が向上し、 ……3点

○その結果人口が増大し、 ……3点

○常備軍を抱えられるようになったから ……3点

の4要素から採点した。「食物の生産量が増えた」

→「人口が増えた」→「国力が強くなった」という

流れに「鉄製の農具の果たした役割」を肉付けする

ように解答を作成するとよいだろう。「農具」という

点に言及していない答案が散見された。

(4) ○ It is not hard to see ……2点

○ why such deep knowledge of … became a magnet ……3点

○ around which a single powerful civilization eventually arose, ……3点

○ uniting the people of the two great river valleys. ……2点

形式主語の構文で to see 以下が真主語であること、around which 以下の関係詞節と a magnet の修飾・被修飾関係、分詞構文 uniting 以下の訳出がポイントであった。分詞構文の意味上の主語については明示されていないものも許容とした。